

	ご意見・コメント
見直しに際しての視点等	<ul style="list-style-type: none"> ・「自然資本」の視点（森林、土壌、水、大気、生物等の自然を社会経済を支える資本として捉える考え方）を入れてはどうか。 ・大雨対策など、緑の雨水浸透機能に関する視点も重要。 ・花緑活動を通して人々を家の外に出すという視点を持つといいのではないか。都市部はコミュニティの形成、多自然地域は交流人口の増加につながる。 ・プランに掲載するイメージ（イラスト）を若い人が興味を持つようなものにしてはどうか。 ・農作業は育てる課程にWell-beingなどの価値がある。遊休地や空き地を活用した菜園、コミュニティガーデン等をプランの施策として位置付けてはどうか。 ・農空間の創出は重要。昨今の世界情勢を背景に、欧米などではエディブル・シティの考え方（都市でどう食料を自給するかという考え方）が広がっている。平時はWell-being、有事の時は食料自給。 ・改正都市緑地法に基づく広域計画としてプランを位置づけるのであれば、市町の計画の上位計画となるため、各地域の実状を踏まえながら市町との連携が必要となる。 ・県民まちなみ緑化事業がその後のフォローアップが重要。緑地のマネジメントも含めて、継続的につながるような形の支援のあり方はどうあるべきかという視点で考えていくべき。
緑の量と質	<ul style="list-style-type: none"> ・郊外住宅地の緑は減少傾向。敷地分割化等により個人による緑化に期待できない中で、緑はある程度、公が確保していく必要がある。 ・外来種が増えて大変な状況になっているところがある。こうしたマイナスの緑を除いて、よいものに変えていくことも重要。 ・適材適所な緑化により、量だけではなく質を保つことが重要。 ・緑を増やすことだけを目的とするのは限界がある。他の目的を達成・解決するための手段として緑を活用する視点も必要。 ・（公財）都市緑地機構がSEGES（シージェス）という略称で私有地の緑地の質を認定している。質の目標を検討する際の参考になる。

	ご意見・コメント
維持管理・担い手	<ul style="list-style-type: none"> ・社会問題の解決を目的として環境活動に関心を持つ若い世代が増えている。一方、既存団体の活動の方向性とは合っていない場合があり、そこをつなげるのは少し難しい。新たな担い手による新たな活動を支援する方向に動きを置いてはどうか。 ・環境活動に関心のある若い世代が増えているが、助成対象は既存の緑化団体を対象にしている印象がある。コーディネーターや指導者を育成しながら、新しい団体・個人を育てていく観点も必要でないか。 ・高校生などの若い世代が環境問題に対する意識が高い。「環境教育」は重要なキーワード。 ・担い手として定年退職後の世代をどう取り込むか。近郊農業との連携などの事例もある。 ・地域に貢献する緑化への取組が企業の評価につながれば、民間の協力を得られやすくなるのではないか。 ・今まで作ってきた緑をどう維持するかが重要。道路の樹木や下草の維持管理は実質的に地域住民が行っているが、高齢化もあり管理が困難。 ・放置された栗園の再生プロジェクトに無償で都市住民が参加している。緑化活動を通じて何かを解決することもできると考えており、いろいろな携わり方を見せることも重要。 ・公的空間の緑化や維持管理に関して、個人レベルの市民参画を社会が許容・後押しするような動きになれば。 ・維持管理と担い手の問題は一体。県民、県、市町の連携・役割分担と、市民レベルでの担い手探しについて、あわせて考えていく必要がある。
校園庭の芝生化	<ul style="list-style-type: none"> ・実績の伸び悩みの要因として、維持管理の負担がネックになっているのではないか。管理も含めた継続的な支援ができるといい。 ・むやみに芝生化をするのではなく、芝生化に適した場所にメリハリを付けて推進するべき。 ・目標達成には、私立学校での芝生化が重要ではないか。 ・小、中学校は運動会等でグラウンドを使うため芝生化しにくい。